



は、大入熱溶接により溶融線近傍が 1,400 を超える高温にさらされることにより、TiN の大部分が固溶し、粒粗大化抑制効果が十分に発揮されないためである。その対策として Ti 量増大により高温で残存しうる TiN 量





国土交通省大臣認定を取得した。高降伏点鋼は、制震ダンパなどを活用し弾性範囲に留まる設計を前提に、従来

